

集落の社会関係資本と大分県姫島村大海地区におけるケーススタディによる社会共通資本の特徴

—集落の社会関係資本・社会共通資本からみるサスティナブル・コミュニティの要件に関する基礎的研究その1—

正会員 ○林孝茂* 同 西悠太* 同 濱田菜波*
同 姫野由香**

地区とコミュニティ 都市計画

サスティナブルコミュニティ

1 研究の背景と目的

日本の近代都市計画は、欧州の国土・地域計画に多大な影響を受けているが、歴史的な背景や制度体制だけでなく、地理条件等の違いから、わが国との「距離」を感じるのも事実である。

特に離島地域は、地理条件により、周辺の影響を受けにくい。固有の資源や暮らし方、文化等により諸問題を独自に抑制・解決してきたと考えられる。よって、離島地域には、現在まで育まれてきた、独自の地域コミュニティがあるのではないかと考えられる。このような原則を具現化させるためには、地域が如何なる方法で、維持や変容を遂げてきたかを明らかにする必要がある。

そこで本研究では、姫島村におけるサスティナブルコミュニティの要件を導出するべく、社会関係資本に関する評価指標の抽出や姫島村大海地区のケーススタディで集落構成・生活空間の特徴を把握することを目的とする。

2 研究の方法と対象地

2-1 研究の方法

本研究では、まず離島集落における生活・生業に関する規範意識や慣習等の社会関係資本を調査する。そして既往研究で明らかとなった、集落構造の変容過程などの社会共通資本と照合する。最終的に、社会関係資本・社会共通資本の両面から、大分県姫島村におけるサスティナブルコミュニティの要件を導出することを目標とする。

2-2 研究対象地

大分県姫島村は、瀬戸内海の西端、国東半島の北約6kmに位置する離島である。また、瀬戸内国立公園の一部でもある。1975年に離島振興法の適用地域に指定され、生活産業基盤の整備などが積極的にこなわれてきた。現

在も一島一村による地域運営を継続している離島である。

3. 慣習・規範意識の評価指標の抽出・定義

3-1 離島地域の集落を支える社会関係資本

離島地域は、自立的な地域として現在まで成立してきた。そこで、離島集落において、昔から続く規範意識、慣習等の島を支えてきた社会関係資本を整理・分析することで、サスティナブルコミュニティの要件を把握したいと考えた。まず、全国の離島や集落の現状を把握するために、「基本属性」、「生活基盤」、「産業構造」、「行政施策」の4つ項目が、地域の慣習などにより、増加または維持している事例の収集^{3) 4) 5) 6) 7) 8)}を行った。その結果、『基本属性』(人口・世帯数)、『産業構造』(農業・漁業)に関する事例が多くみられた。次に、それらの事例から、キーワードとなる項目を抽出すると、「土地や家屋の問題」、「連帯感・仲間意識」、「産業と担い手の問題」、「困窮対策」などが挙げられた。また、これらの項目を〈共同体〉、〈産業〉、〈土地・家屋〉に分類し、内容をまとめた(表1)。

表1 社会関係資本の評価指標

	分類	項目	内容
	規範意識	<共同体>	「連帯感・仲間意識」
慣習	<産業>	「土地や家屋の問題」	島内の土地や家屋に関する慣習について
	<土地・家屋>	「産業の担い手の問題」	・農業や漁業に関する慣習について ・就労の場や後継者の確保について
		「困窮対策」	・農業や漁業に関する規制や独自のルールに 島での困窮時の対策について

3-2 姫島村の集落を支える社会関係資本

3-1で明らかになった〈共同体〉、〈産業〉、〈土地・家屋〉の3つの分類ごとに、姫島村における社会関係資本について文献調査とヒアリング調査を行った(図1)。

〈共同体〉姫島村では、慣習や祭事によって、住民同士の連帯感・仲間意識を深めていたことがわかる。また、これらに関する社会共通資本として公民館が挙げられる。以前は若者宿として、現在は各地区の交流の場として、

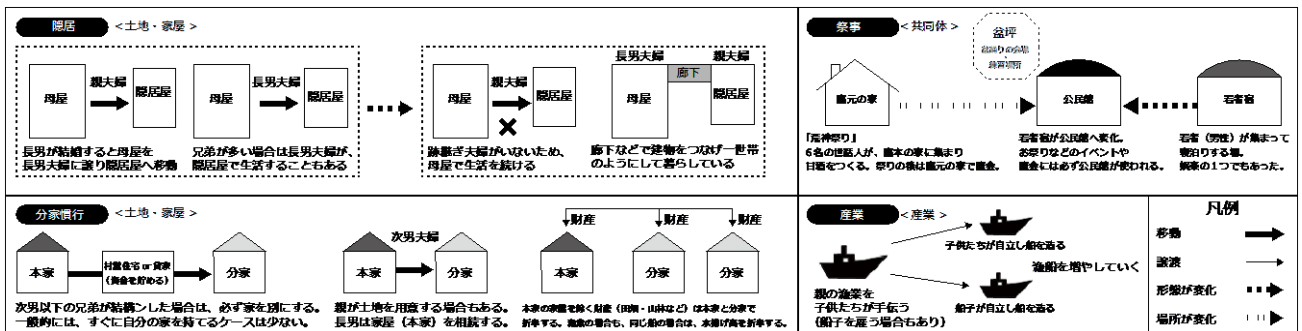


図1 慣習と建物の体制図

現在まで継承されている。

〈産業〉島独自の漁業に関する規制により、漁場を守ってきた。また、長男子相続の意識と、家族での漁労形態により後継者を確保してきたことがわかった。

〈土地・家屋〉長男が本家を継ぎ、次男以降も島内に家を建てられた。また、財産は本家と分家で折半するが、交際費等は軽減されるため、暮らしやすい環境にあった。これにより、島内に世帯を増やしていったと考えられる。

4. サスティナブルコミュニティの要素

姫島村におけるサスティナブルコミュニティの要素を、社会共通資本・社会関係資本の両面から明らかにする。社会関係資本に関する評価指標として、〈共同体〉、〈産業〉、〈土地・家屋〉、社会共通資本に関する評価指標として〈ゾーニング〉、〈境界〉、〈生活空間〉、〈オープンスペース〉、〈交通〉がある。これらの評価指標を社会関係資本、社会共通資本、社会関係資本・社会共通資本両方に含まれるものの3つに分類し、5つのサスティナブルコミュニティの要素を抽出する(表2)。

表2 サスティナブルコミュニティの要素

サスティナブルコミュニティの要素	分類	評価指標	内容
【共同体】	社会関係資本	〈共同体〉	住民同士の相互扶助に関する慣習やコミュニティの個性
【産業】		〈産業〉	産業に関する独自の規制やルールまた慣習
【土地利用と生活空間】	社会関係資本	〈土地・家屋〉	集落特性に合った集落構成や生活空間
		〈ゾーニング〉	集落の慣習などに従った土地利用
		〈境界〉	集落の慣習などに従った土地利用
【オープンスペース】	社会共通資本	〈生活空間〉	誰もが利用することのできる場(信仰対象物、生業に関するインフラ、公共施設等)
		〈オープンスペース〉	誰もが利用することのできる場(信仰対象物、生業に関するインフラ、公共施設等)
【交通】	社会共通資本	〈交通〉	自動車を使用しない、歩ける程度のコミュニティ集落間を結ぶ経路や生業の場を結ぶ経路

5 大分県姫島村大海地区における社会共通資本の特徴

3-2で姫島村における社会関係資本に関する3つの評価指標が明らかとなったため、5章では、姫島村における社会共通資本を明らかにするため、既往研究²⁾によって示された5つの評価指標に基づき、ケーススタディを行った。対象とする集落は、季節風と集落構成・生活空間の関係が顕著に表れている大海地区とした(図2)。

〈ゾーニング〉大海地区は他地区に比べ、農業に重点を置いていた⁹⁾、1970年頃までは、集落の周りには水田

や畑が広がっていた。しかし、後継者不足や集落内の車道整備に伴い、水田や畑は減少していった。1990年以降は家屋周辺のみには畑が存在し、家屋は密集していない。このような配置が多いのは、季節風である『アナジ』の影響を受けにくいとめと考えられる。

〈境界〉1990年以降、海岸沿い道路の整備と同時に、その付近に集落が拡大している。また、1970年～1990年にかけて、農地が収縮していることがわかる。

〈生活空間〉大海地区の家屋は、台風による強い風の影響を大きく受けるため、母屋は丘陵地では斜面側、平地では北側に建て、母屋全面に納屋や隠居屋を設ける傾向がある。また、家屋が塀や建物で四方に囲まれ、閉鎖的に配置されている傾向にあるのは、中庭で漁具の準備や芋を干す作業を行うための静穏域を確保するためである。

〈オープンスペース〉祭事や慣習と結びつきの深い『公民館』は、海岸沿いの整備後、立地を変えながらも継続して存在している。また、漁業関連施設である『恵比須社』、『見張り小屋』は、基盤整備などの環境の変化後も変わらず存在しており、『漁具庫^{注1)}』は、1990年代～2000年代にかけて新たに整備された。

〈交通〉漁港への最短経路である『セド』が形成されており、居住と労働は相互に結びついているといえる。さらに中央の道は、1970年～1990年の間に整備された海岸沿いの幹線道路とも交わっており、『辻空間』を構成し、1990年以降は、集落の主な入り口となっている(図2)。

6. 総括

本研究では、離島集落における生活・生業に関する規範意識や慣習等から社会関係資本の評価指標を抽出し、既往研究²⁾で明らかとなった社会共通資本の評価指標と照合する。これら8つの評価指標を社会関係資本、社会共通資本、社会関係資本・社会共通資本両方の3つに分類し、

【共同体】、【産業】、【土地利用と生活空間】、【オープンスペース】、【交通】の5つのサスティナブルコミュニティの要素を明らかにした。

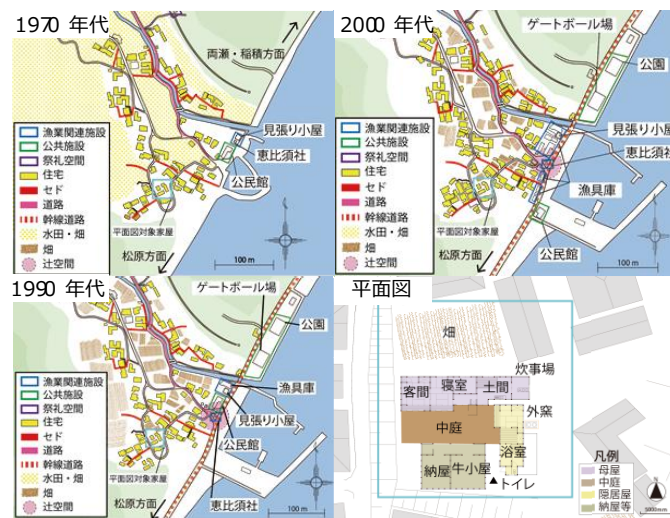


図2 大海地区の変遷図と平面図

【補注】

注1) 海岸沿いや家屋の敷地内にある漁業の道具を入れる作業をするための場所。

【参考文献】

- 1) 大室麻里香, 姫島由香『集落構造の変容にみるサスティナブルコミュニティの理想に関する基礎的研究』大分大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期課程修士論文, 2017
- 2) 山村宗一郎, 佐藤誠治, 小林祐司『集落構成の変遷にみるサスティナブル・コミュニティの理想』大分大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期課程修士論文, 2011
- 3) 山崎義人, 橋本大, 重村力, 山崎寿一, 杉野香織, 上野浩一『人口増加を続けてきた坊勢島の居住システムの考察』日本建築学会計画系論文集, 第612号, 57-62, 2007年2月
- 4) 山崎義人, 橋本大, 重村力, 山崎寿一, 杉野香織, 上野浩一『坊勢島におけるライフステージに応じた地域内転居システム』日本建築学会計画系論文集, 第616号, 85-90, 2007年6月
- 5) 山崎義人, 杉野香織, 重村力, 山崎寿一『ライフステージ毎にみた坊勢島における女性の交流の特徴-人口増加を続けてきた坊勢島にみる地域社会の持続に関する研究-』日本建築学会計画系論文集, 第624号, 341-347, 2008年2月
- 6) 山内昌和『福岡県小島漁業コミュニティにおける世帯再生産メカニズム』, 地理学評論 73A-12, 835-854, 2000
- 7) 安食和宏『北上山地の奥地山村集落における世帯の構成とその再生産プロセス』, 地理学評論 66A-3, 131-150, 1993
- 8) 宮本常一(1970)『日本の離島 第2集』, 株式会社未本社
- 9) 坂田真, 月館敏栄『豊後姫島の漁業集落について』, pp.137-140 日本建築学会東北支部研究発表会, 1977

*大分大学大学院工学研究科博士前期課程 大学院生

* Graduate Student, Oita Univ.

**大分大学工学部福祉環境工学科 助教 博士(工学)

** Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng